

平成24年度 浦安市小・中学生生活実態調査結果報告

教育委員会では、子どもを取り巻く社会変化や教育情勢と子どもの生活との関連を客観的に把握することを目的として、児童・生徒の意識や心情・生活・行動、保護者及び教職員の意識などについて、継続して調査をしています。本年度は児童・生徒を対象に生活実態調査を実施しました。

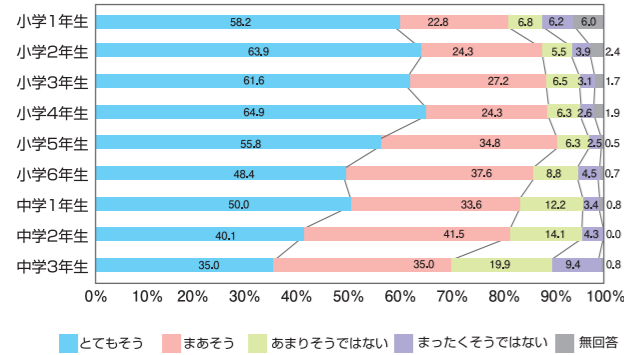
今回は「親子関係について」など調査結果から抜粋して紹介しますので、内容について親子で話し合うなど、ご家庭でお役立てください。調査結果の詳細につきましては、3月中旬に教育研究センターのホームページ(<http://www.city-urayasu.ed.jp/>)に掲載しますので、ご覧ください。

対象 市立全小・中学校の全学年1学級を抽出
小学生1～6年：3,250名 中学生1～3年：805名 **計4,055名**

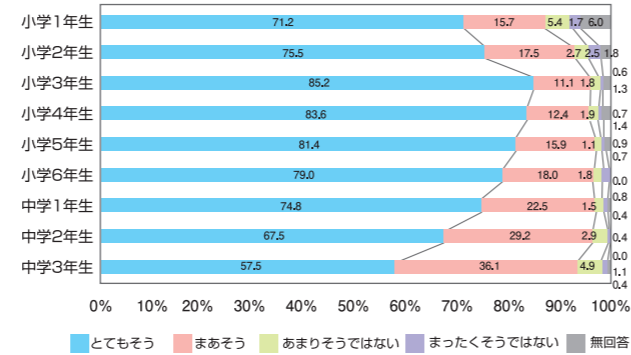
実施時期 平成24年9月

親子関係について

親はがんばったときに、ほめてくれる。



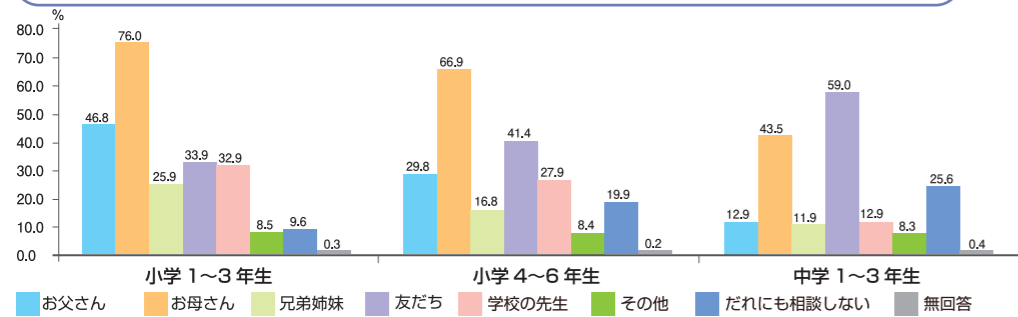
親はいけないことをしたときには、しかってくれる。



『がんばったときにほめてくれる』では「とてもそう」と「まあそう」と回答した児童・生徒の割合の合計は5年生までは約8～9割ですが、6年生から中学生にかけて減少します。また『しかってくれる』では「とてもそう」と回答した児童・生徒の割合は、小学3年生をピークに減少していきます。子どもたちの健全育成と規範意識の向上を図るためにも、ほめるべきときにはほめ、しかるべきときにはしかることが大切です。

悩みの相談相手について

あなたは、悩みごとがあると、だれに相談しますか。(複数回答)

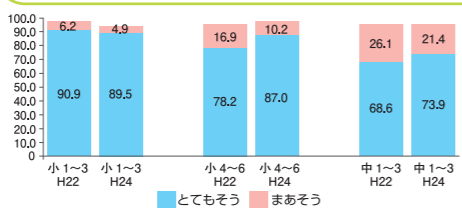


悩みごとについて小学生では「お母さん」に相談する傾向が見られます。しかし小学4年生からは「友だち」への相談が増えます。また、小学4～6年生では約1/5、中学生では約1/4の児童・生徒が「だれにも相談しない」と答えています。誰かに相談することで解決に結びつく場合も多いことから、今後も子どもが悩みを抱えていないか、大人がより目を配る必要があります。

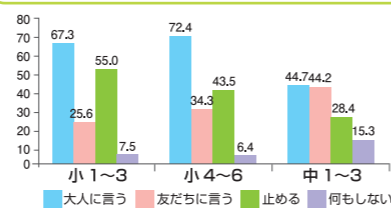
いじめについて

『いじめはいけないことだ』と思う子どもの割合は9割を超えています。いじめを見たときの行動は、学年が上がるにつれて「大人に言う」より「友だちに言う」傾向がみられ、「何もしない」も増えています。今後も実態の把握に努め、いじめ問題の解決に向けて取り組んでいきますので、ご家庭でもご協力をお願いします。

いじめはいけないことだと思う。(「とてもそう」+「まあそう」の割合)

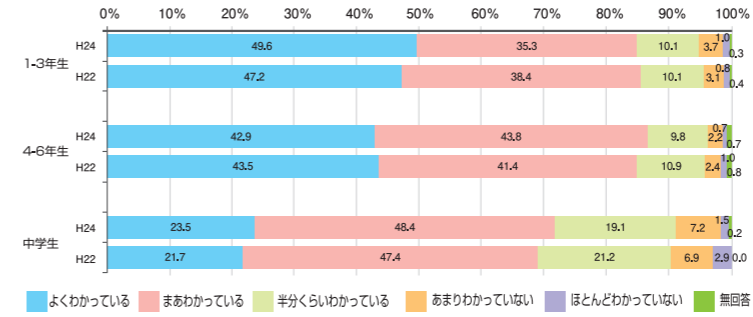


いじめを見たらどうしますか。(複数回答) ※「その他」と「無回答」を省いています



学習について

あなたは、学校の授業がわかっていますか

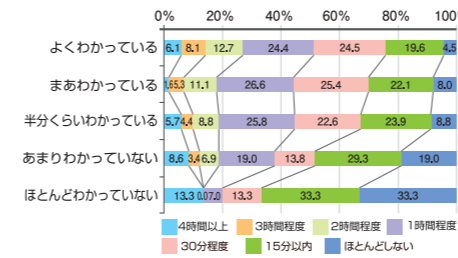


小学校では「よくわかってる」と「まあわかってる」の割合の合計は、平成22年度同様に85%程度になっています。中学校では「よくわかってる」の割合は70%程度ですが、平成22年度に比べその割合は増加しています。

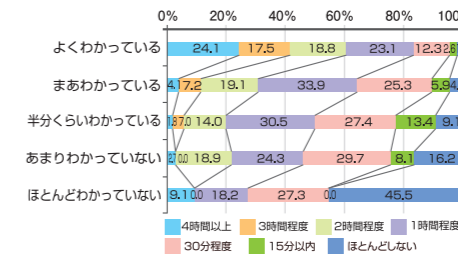
授業理解度を家庭学習時間との相関でみると、家庭学習を行うことで授業の理解度が増すことがわかり、特に高学年では「ほとんどわかっていない」と答えた児童のほぼ半数が家庭学習を「ほとんどしない」と答えています。

授業理解度別に見た家庭学習時間

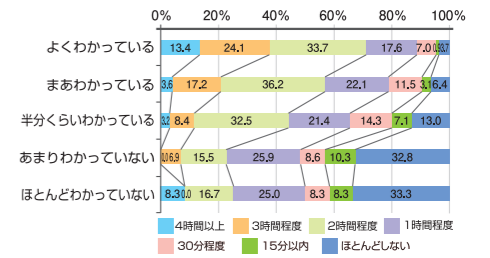
小1～3年生



小4～6年生



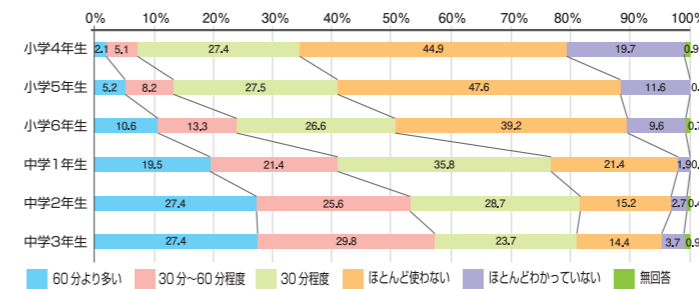
中1～3年生



メディアとのかかわりについて (4年生以上で実施)

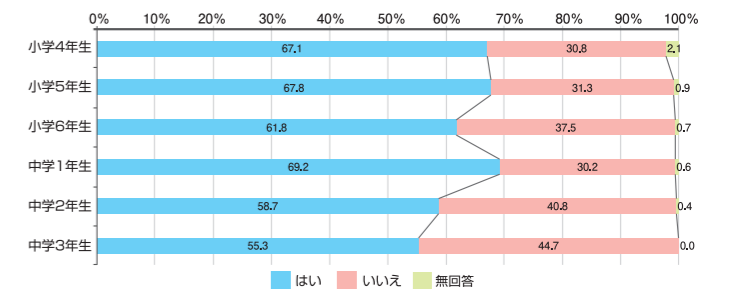
あなたは、ふだんネットやメールをどれくらい使っていますか。

(数値は携帯電話を持っている児童・生徒の中での割合)



家では、ネットやメール、携帯電話(スマートフォン)の使い方についてルールが決まっていますか。

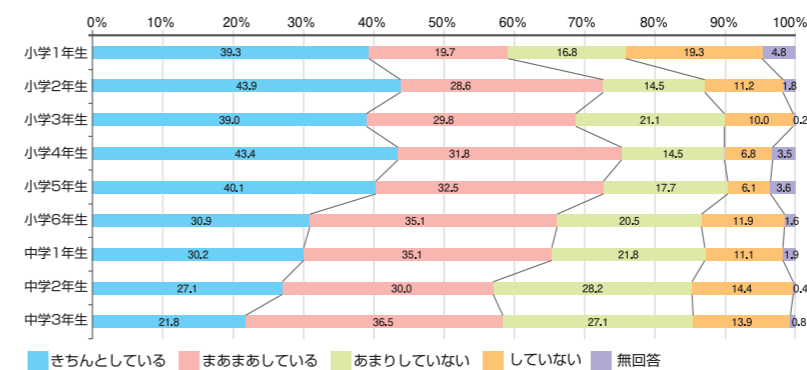
(数値は携帯電話を持っている児童・生徒の中での割合)



ネットやメールの使用時間については、「30分～60分程度」と「60分以上多い」の割合が、小学4年生7.2%に対して中学3年生57.2%と学年が上がるにつれて増えています。特に中学2～3年生では60分以上使用する生徒が4人に1人となっています。しかし、「使い方のルールが決まっている」と答えた割合は、小・中学生ともに6割程度にとどまっています。最近はネットやメール、携帯電話に関するトラブルが増えているので、使い方のルールについて考える必要があります。

安全について

地震や火災が起こった時の安全な行動について、家族で話し合っている。



地震や火災が起こった時の行動についての話し合いを「きちんとしている」と「まあまあしている」がおよそ6～7割以上の回答ですが、「していない」との回答も1割程度ありました。交通安全についても同じような傾向が見られましたので、災害時の安全な行動及び交通安全についても家族で十分に話し合うことが大切です。